

# 経営理念の成文化で不況克服!?

中長期事業計画を策定するに当たって、経営理念を成文化する中小企業が増えてきた。長期不況を乗り切るには、まず経営目的を明確にすることによって全社員の力を結集、計画目標や具体的事業計画をやり遂げようとの考えによるもの。

高精度型打ち抜き機メーカーの坂本造機（大阪市生野区小路

## 中小の社員力を結集

大阪の事業計画達成目指す

2の11の26、06・752・7484)は、「皆の『夢』を共有し、実現するために経営理念を成文化した(坂本春機社長)。  
①高付加価値商品やサービス提供による社会への貢献②働きがいのある職場づくりと生活向上③豊かな社会づくりの一員であることを確信できる企業づくりが骨子。

「この考えを基本に、二〇〇六年度を最終年度とする事業計画は技術開発費を売上高比一〇%とし、研究開発型企業への特化、世界に通用するブランド商品の開発などを目指す。売上高は三十億円(九八年二月期七億円)、従業員六十五人(現在三十五人)を目標に置いている。

コンピュータソフト開発のレイシスソフトウェアサービス

(大阪市西区阿波座1の7の

12、東新ビル、06・532・9357)は、十年後の二〇〇八年に株式上場することが中期目標。このため①社会貢献(納税義務、雇用確保)②従業員や家族・会社、社会に対する責任③従業員・取引先などの幸福をキーワードとする理念を策定した。  
小野逸二社長は「社員ごとも

に、将来像を明確にしたことで、社内に活気が出て、「コミュニケーションも深まってきた」という。二〇〇八年の売上高百億円(九八年一月期二億五千万円)が目標で、従業員は百人(現在三十人)の計画。世界初・業界初の商品開発を目指し、下請け化しないためにも、現在のシステム開発約七〇%、商品開発約三〇%の売り上げ構成を逆転させたい考え。

イタリア料理専門店のイタリアカ(大阪市中央区南本町2の4の3、丸全ビル、06・271・3808)は「地域社会の灯台になれるような店づくり(大久保裕康社長)が基本姿勢。技術力を売りもの、地域に喜んでもらえる料理店づくりを目指すという。二〇〇一年の売り上げ目標は七億円(九七年十二月期四億円)に置き、店数も一三三店増やし六十七店とする計画。